

2017年4月19日
イオン株式会社

「イオン持続可能な調達方針」 「持続可能な調達2020年目標」を策定

イオンはこのたび、農産物、畜産物、水産物、紙・パルプ・木材、パーム油について「イオン持続可能な調達方針」、および「2020年の調達目標」を策定しました。グローバル基準に基づいて生産された商品の調達を推進することにより、真に「安全・安心」な商品をお客さまにご提供し続けるとともに、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」という基本理念のもと、イオンはグループ一体となって積極的にCSR活動を推進し、企業成長と社会の発展を両立させる「サステナブル経営」を実現するため、2011年に「イオンサステナビリティ基本方針」を制定しました。2014年には「サステナブル経営」をさらに前進させるべく「ビッグチャレンジ2020」を掲げ、CSR活動と事業活動が一体となった経営の実現をめざし、さまざまな取り組みを進めています。

このたび、「ビッグチャレンジ2020」にも掲げる「サプライチェーンにおける持続可能な調達ガイドライン制定」に基づき、下記の通り、調達方針と目標を定めました。

これらの取り組みは、2015年に国際連合が採択した「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に含まれる持続可能な開発目標（SDGs）に合うものでもあり、イオンは事業活動を通じて社会課題の解決に向けて貢献してまいります。

記

【イオン持続可能な調達方針・2020年目標】

対象	イオン持続可能な調達方針	持続可能な調達2020年目標
農産物	自然・生態系・社会と調和のとれた持続可能な農産物の調達に努めます。自らも野菜を栽培することで安全でおいしい野菜を提供し、安心してらせる食の未来の創造に貢献します。	・プライベートブランドは、GFSI※1ベースの適正農業規範(GAP)管理の100%実施をめざす ・オーガニック農産物売上構成比5%をめざす
畜産物	自然・生態系・社会と調和のとれた持続可能な畜産物の調達に努めます。自らも牛肉を生産することで安全でおいしい牛肉を提供し、安心してらせる食の未来の創造に貢献します。	・プライベートブランドは、GFSIベースの食品安全マネジメントシステム(FSMS)または、適正農業規範(GAP)による管理の100%実施をめざす

対象	イオン持続可能な調達方針	持続可能な調達2020年目標
水産物	資源の枯渇防止と生物多様性保全の観点から、定期的なリスク評価を行います。また、リスク低減のために、実行可能な対策を検討し、持続可能な水産物の調達に努めます。（*1）	・イオン（株）連結対象の総合スーパー、スーパーマーケット企業で、MSC ^{※2} 、ASC ^{※3} の流通・加工認証（CoC）の100%取得をめざす ・主要な全魚種で、持続可能な裏付けのあるプライベートブランドを提供する
紙・パルプ・木材	適切に管理された森から生産された木材やパルプを商品の原材料や店舗の資材に活用し、森林破壊の防止に努めます。（*2）	・主要なカテゴリーのプライベートブランドについて、持続可能な認証（FSC ^{※4} 認証等）原料の100%利用をめざす
パーム油	商品の原材料として使われるパーム油について、森林破壊の防止及び生物多様性に配慮した調達に努めます。	・プライベートブランドは、持続可能な認証（RSPO ^{※5} 等）原料の100%利用をめざす

（*1） 水産物に関する調達方針は、2014年に「イオン水産物調達方針」として先行して定めたものです。

（*2） 紙・パルプ・木材に関する調達方針は、2016年に「イオン森林資源調達方針」として先行して定めたものです。

※1 G F S I（Global Food Safety Initiative）：世界食品安全イニシアチブ
グローバルに展開する小売業、食品メーカーで構成する T C G F（The Consumer Goods Forum）傘下の食品安全の推進団体。食品安全の認証も実施

※2 M S C（Marine Stewardship Council）：海洋管理協議会
持続可能で社会的に責任ある方法で漁獲された天然水産物を認証

※3 A S C（Aquaculture Stewardship Council）：水産養殖管理協議会
環境や社会に配慮した養殖場で生産された水産物を認証

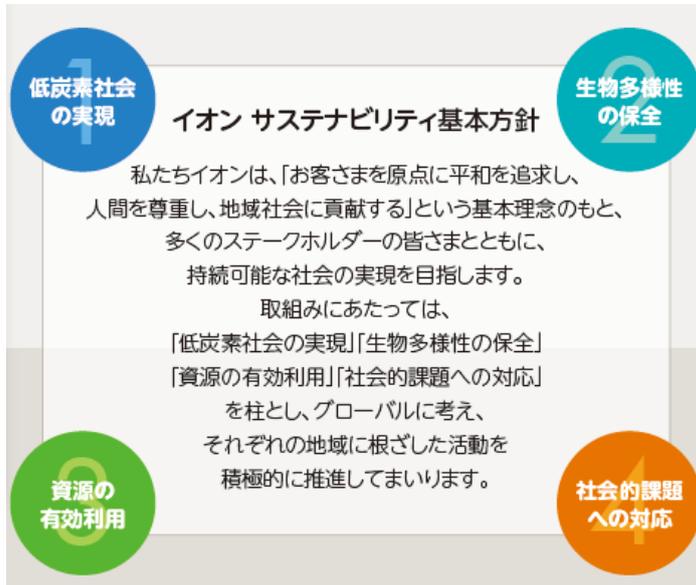
※4 F S C（Forest Stewardship Council）：森林管理協議会
管理や伐採が、環境や地域社会に配慮して行なわれている森林を認証。

※5 R S P O（Roundtable on Sustainable Palm Oil）：持続可能なパーム油のための円卓会議
世界的に信頼される認証基準の策定とステークホルダー（関係者）の参加を通じ、持続可能なパーム油の生産と利用を促進

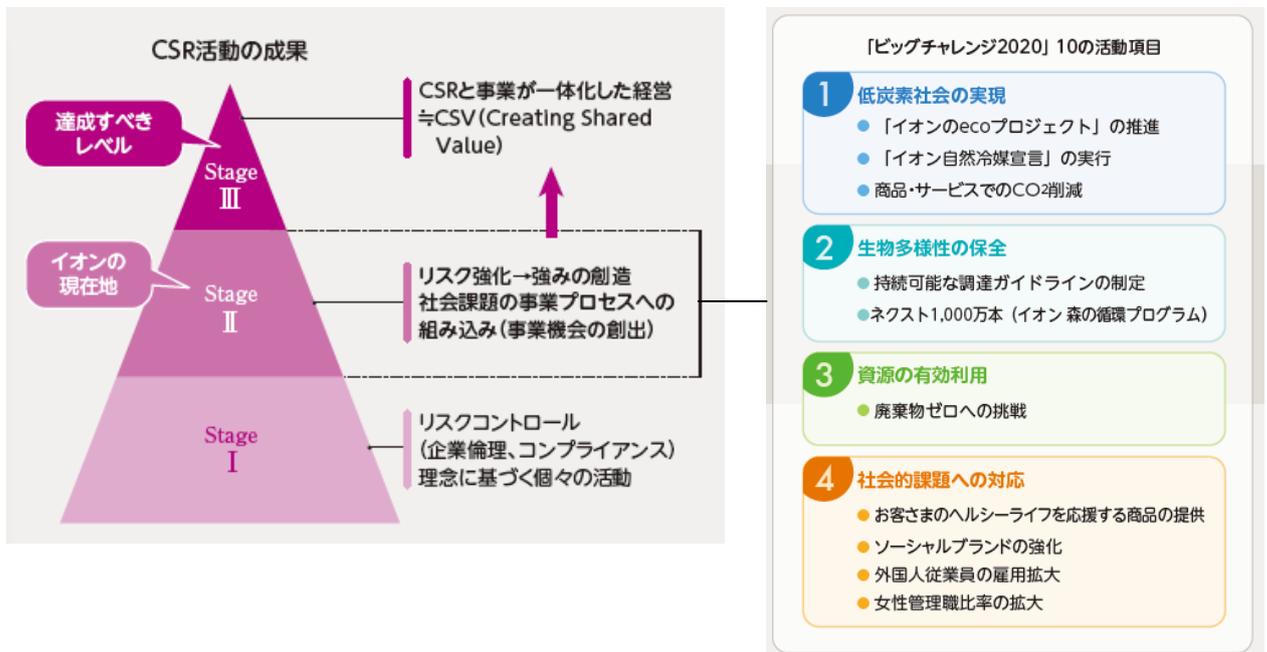
以上

ご参考

【イオン サステナビリティ基本方針】



【ビッグチャレンジ2020】



【イオンの持続可能な調達 ロードマップ】



持続可能な農業に基づく商品として、イオンでは1993年には「人にやさしい、地球にやさしい」というコンセプトに基づく有機栽培等による自社ブランド「グリーンアイ」(現「トップバリュ グリーンアイ」)の農産物をいち早く発売しました。

2002年には、国際的な農業生産工程管理基準である「Eurep GAP (現Global GAP※1)」に基づくAEONGAPを導入し、持続可能な農産物の生産、提供に取り組んでいます。

また、「イオン農場」の農場運営を行うイオンアグリ創造(株)では、2009年の会社設立当初より、Global GAP手法を取り入れた農場管理を行っています。これは農業生産活動の各工程で、点検項目に沿った正確な実施・記録・点検・評価を継続的に実施するもので、現在直営のすべての「イオン農場」では、世界で最も普及している農場運営の認証である「Global GAP」を取得し、毎年認証を更新しています。さらに、GAPの取得を目指す一般の生産者の方々の支援や、GAP実践方法を伝える講師の派遣等を実施することで、世界的に認められる認証を得た日本の農産物の生産拡大に寄与しています。

水産物においては、2006年に「海のエコラベル」として知られ、持続可能で社会的に責任ある方法で漁獲された天然水産物であることを示す国際認証「MSC※2 認証」を取得した商品の販売を開始。続いて、2014年には、環境や社会に配慮した養殖場で生産された水産物であることを示す「養殖版海のエコラベル」の「ASC※3 認証」を取得した商品をアジアの小売業で初めて販売するなど、限りある資源の保全につながる取り組みを継続しています。

※1 GAP (Good Agricultural Practice) : 適正農業規範・農業生産工程管理

※2 MSC (Marine Stewardship Council) : 海洋管理協議会

※3 ASC (Aquaculture Stewardship Council) : 水産養殖管理協議会

【国連の持続可能な開発目標（SDGs）】



2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた17の「持続可能な開発目標（SDGs）」は、2030年に向けて、すべての人に普遍的に適用される目標です。グローバル企業はもちろん、日本国内企業でもこれらの目標達成に向けた対応を進めています。